

改正税理士法「事務所規定の見直し」で変わる、士業ビジネス

FIVE STAR MAGAZINE

士業専門誌

2023.05 74

年間購読／年間6冊・30,000円（税別・送料込）

発行／LIFE & MAGAZINE 株式会社

◎本誌は以下の事務所にお届けしています

税理士、司法書士、弁護士、行政書士、社会保険労務士
など（購読者の多い順）

NOTHING IS

impossible

特集

業界の常識を変える
士業「禁断の扉」

士業事務所のための経営専門誌

The Magazine for Professional Firms

進め!



福田

特派員



インタビュー

社会保険労務士法人みらいコンサルティング 代表
一般社団法人労働コンプライアンス協会・理事

福田芳明氏



「労務管理の視点で考える、より良い社会の実現!」。労務のプロが学び合い高め合う新たなプラットフォームとして2021年発足した労働コンプライアンス協会。本稿は、協会理事の福田芳明氏を取材特派員として、全国の注目事務所へのインタビューを行うシリーズ企画(文・武田司)

・・・ 第八回 ・・・

神奈川県横浜市

岩田社会保険労務士事務所

岩田佑介氏

労務と採用、人事制度のスキマを埋める

福田 開業からの経緯を教えてください。

岩田 2018年に副業で開業して、その後2021年に現在の事務所を開業しています。

副業のときは、コワーキングオフィスで就業していました。そのときにスタートアップの皆さんとたくさん出会ったことで、スタートアップやベンチャーに特化した労務支援を行いたいと考えて、会社を辞めて独立したのが2021年の開業です。

福田 では現在も、中心業務はスタートアップ、ベンチャー企業のご支援になりますか?

岩田 そうですね。現在はベンチャーキャピタル(VC)さんと一緒に勉強会を開催したり、講師に呼ばれたりすることが多くなっています。

現在は関係性の強いVCさんが2つほどあって、両社とともに定期勉強会を行っています。VCさ

んが声をかけると、毎回30社程度の出資先が集まります。

福田 スタートアップ企業の労務管理へのニーズは、どのように掘り起こしていますか?

岩田 スタートアップ企業ではまだ労務管理を行う余裕がないケースも多いのですが、勉強会をするとうVCさんが「今から労務面を整備すべきです」などと助言してくれますので、顧問契約の後押しになっています。

福田 なるほど。でも、スタートアップ企業の興味関心は、やはり労務よりも採用になりがちですね。本来は採用以前に労務面がしっかりしていないと、思うように人材を獲得できないわけですが。

岩田 そうですね。特にエンジニアの採用は死活問題で、今はVCさん自体も人材紹介の機能を持っていたりします。

そうしたVCが人材を紹介するときに、就業規則すらない企業は推薦しにくくなります。ですから、採用活動のために労務をきち

んと整理すべきだという考えは、VCさんとも共通認識になっています。

福田 やはり、そうなりますよね。

岩田 これは当たり前のことですが、スタートアップの人事担当者のメインの仕事は採用です。担当者はそこを求められていますので、そうすると労務面の実務や知識は弱くなりがちです。

それでも最低限の知識はつけておきましょうということで、定期的に勉強会を行っています。

福田 人事担当と言っても、採用と労務は畑違いのところがありますよね。そうした企業をサポートするときに、貴事務所の体制はどうなっていますか?

岩田 現在は有資格者が私一人で、ほかに2名のスタッフがいます。事務所の特徴としては、DXを進めていますので、今の事務所規模にしては割と、さまざまなシステムを活用している事務所だと思います。

そうしたシステムを活用しながら、給与計算などの事務は事務担



代表の岩田佑介氏

所内の様子



当のスタッフがいき、コンサルティングに関してはもう一人のスタッフが専任で行っています。スタートアップの支援やIPO支援などは、もちろん私が担当しています。

福田 人事コンサルなどの仕事も行っているんですね。

岩田 はい。スタッフがメインに行っていますが、人事制度設計は社労士も一緒に入ってご支援すべきだと、私は思っています。ほかのコンサル会社が人事制度設計を行った企業では、就業規則や給与規定で変更すべき箇所の修正が欠落しているケースが割とあるので、やはり社労士も含めたワンストップで、人事制度を設計すべきだと思います。

福田 人事制度と労務も、またすこし畑が異なりますからね。開業して間もないですが、仕事は順調なようですね。この先は、事務所の規模拡大を考えていますか？

岩田 これからどのような事務所にしていくかについては、すこし迷いがあります。

組織を拡大するのなら、例えばコンサルティング業務を標準化すべきなのですが、どこかにコンサルなんて標準化できるわけがないという気持ちがあります。

福田 標準化するよりも属人化させた方が、よりお客様に合ったサービスを提供できる面がありますよね。

岩田 例えばご依頼いただいた仕事を受けられないというときに、今なら労務コンプライアンス協会のように、信頼して、相談できるプラットフォームがあることは、心の拠りどころになっています。

もし、労務コンプライアンス協会がなかったら、無理をしても事務所を成長させて、受託できる体制を整えていく必要があると思いますが、こうしたコミュニティがあるのなら、そちらにご紹介していく方がいいのだろうと思っています。

福田 私たちみらいコンサルティングも人材は限られていて、お客様のご支援を私たちだけでは完結できないときもあります。

ですから、労務コンプライアンス協会の設立には、信頼できるパートナーの先生たちとの連携、プラットフォームの構築が目的の一つとしてありました。こうしたプラットフォームを通して、プロジェクト単位やリージョン単位での連携が、活発にできるようになればいいなと思っています。

労務とは、組織の「成長痛」を和らげる仕事

岩田 最近、私自身の知識のブラッシュアップも兼ねてなのですが、CSR活動として、社労士試験を勉強されている企業の人事労務の方などに向けた『実務のための社労士試験ゼミ』というライブ配信を始めました。

これは完全無料で、毎月社労士試験の過去問を一緒に解いていくものなのですが、試験のための知識だけではなく、合格後の実務に活かせるように、実際の実務上の話もしているのが特徴になってい

ます。

活動を始めた理由は、より多くの人に社労士試験にチャレンジしてもらいたいと思っているからです。昨日ローンチしたばかりですが、すでに40人の方にコミュニティに入会していただいています。

細く長く続けていこうと思っていますが、ゆくゆくコンテンツが溜まれば、それを大学生に無料開放して、学生に社労士に興味を持ってもらえるきっかけになればと思っています。

福田 そうなんですね。全国の社労士は、岩田先生に感謝しなければなりませんね。

労務コンプライアンス協会でお付き合いさせていただいている先生方は、皆さん情報発信に熱心で、私たちも勉強させていただいているのですが、最近は社労士の業界でも、知識や経験のオープンシェアが進んでいますね。

岩田 私は最近、ChatGPTで遊んでいるのですが、これが普及したら情報を囲い込む理由がなくなります。

私は、顧客とのコミュニケーションは、もっぱらChatworkとSlackが中心なのですが、相談に対する回答メッセージを作っているときに、私の作った回答は

ChatGPTとどこが違うのだろうと考えることがあります。聞かれた質問に、一問一答で答えるだけであれば、ChatGPTと変わります。おまけにChatGPTの方が、文章がうまかったりします（苦笑）。

ですから、私たちは質問からもう少し問題を掘り下げたり、相手の心情に寄り添った回答や提案をしたりしながら、よりヒューマニックな対応をしていく必要があると思います。

福田 本当にそうなりますね。岩田先生の事務所のパーパスにも、それがありません。「組織の成長痛に寄り添い和らげる」と。

岩田 勤務時代の私自身もそうでしたが、企業の労務の担当者は、

日々起こるトラブルや問題に、気持ち減ってしまうことが多くあります。

だからこそ、それをトラブルや問題ではなく、「成長痛」だと捉えてほしいと思っています。

成長痛だから、成長期には起こりうるものです。根治はできなかったりするものですから、一緒に和らげていきましょうというメッセージにしています。

成長痛だと思えば、お客様も私たちも前向きに取り組めるのではないかと考えて、こうした表現にしています。

福田 岩田先生のお人柄と事務所の想いが詰まった良いフレーズだと思います。本日はありがとうございました。■



打ち合わせの様子

ベンチャー・スタートアップ企業の労務 50のポイント

社会保険労務士
岩田佑介 著



本書は、
上場を目指す

ベンチャー・スタートアップ企業が
知っておくべき課題を
50のポイントに
まとめて解説。

セルバ出版

岩田佑介氏の著書『ベンチャー・スタートアップ企業の労務 50のポイント』（セルバ出版）

実務で"よく出る"試験問題を徹底解説！

実務のための 社労士試験ゼミ



特定社会保険労務士
IPO・内部統制実務士

岩田 佑介

毎月25日

開催

12:15-12:45

無料 YouTubeライブ配信

※25日が土日祝の際には前後の日程にて開催

YouTube ライブ配信『実務のための社労士試験ゼミ（オリエンテーション動画）』。毎月25日前後のランチタイムにYouTubeライブで、実務に"よく出る"試験問題の解説動画を公開。また、LINEのオープンチャット機能を用いたコミュニティも運営している

